

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根付くホーム作りを理念に掲げている 2ヶ月ごとの地域推進会議の実施	○ 町会長、民生員、地域の方々にいつも気にかけて頂き地域の行事に参加させていただいている。今後ホームで地域に貢献できる事はないか微力ではあるがお力に少しでもなりたい。ホーム行事にも多数参加して頂き、ますます交流を深めて行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念を掲げ、ユニット目標、個人目標を掲げている。毎月の目標も掲げチームワークを図っている。	○ 今後も年間ごとのユニット目標、個人目標を掲げ、目標設定後の評価、個人面談を実践しよりチームワークをよくしたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム理念を玄関、ユニット目標をホールに掲げ見やすい場所に掲示している。入居時、見学時に説明しておりパンフレットにも掲示している	○ 推進会議資料に毎回掲載し、なお周知を図れるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の行事には声を掛けて頂き、「しめ縄御披露目」「町内ねぶた御披露目」「御神楽」等参加させていただいている。「夏祭り」には地域の協力により「しの笛」等々を御披露いただき、交流を深める事ができた。ご近所の方からは花や果物等々をいただき、いつも気にかけて頂いている。ボランティアの受け入れもプライベートへの配慮の説明をしている。	○ ホーム行事をお知らせし地域の方達と交流できるようにしている。玄関にも気軽に立ち寄れるような看板を下げ交流することに努めている。キャラバンメイトメンバーではないが機会があったらぜひ活動に参加させて頂きたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を謙虚に受け止め入居者様、職員のよりいっそうの資質向上の為取り組んでいる。昨年度の改善項目は、職員にも内容を把握してもらっている	○	評価内容、改善内容を周知しホーム全体で取り組んだ。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	玄関に評価結果資料を準備し誰でも見られるようにしている。会議時の報告内容としている。地域、家族側の意見にも取り組んでいる。	○	推進会議記録を参加メンバーではない家族様へも配布しホームの取り組みを理解していただけるようにしていきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議資料、会議録を報告している。毎月利用者状況の報告をしている。推進会議時参加をお願いしている。不明事項はすぐ指導を仰ぐようにしている。	○	広報誌の配布、外部評価結果を提出し行政との連携を図って行きたい。推進会議資料、月1回の入居者状況を報告している。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修参加により理解を深めている。	○	必要と思われる家族に情報提供し活用できるよう支援していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体虐待のみではなく「施錠」「プライバシー」も虐待になることを説明している。家族へも誤解のないよう多少の傷、内出血であっても説明をしている。	○	虐待マニュアルの設置（内容・対応の流れ・発見チェックリスト） 虐待は暴力だけではなく、言葉、態度、無視等も虐待に入ることを学ぶようにする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族の時間に合わせ何度でも説明に伺っている。契約内容の変更があった場合は都度同意を得ている。退去時も十分に説明を行い不安を生じないように配慮している。一方的な説明にならないようにしている。	○	退去後も見舞い、訪問でなるべく繋がりを持ち続けられるようにフォローアップしている。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時苦情に関しての説明をしている 苦情、意見があった場合、管理者と情報交換後文面にし回覧形式をとり全職員が周知できるようにしている プライバシーへも配慮し苦情、意見を出しやすい雰囲気づくりをしている	○	苦情の言える、出せるホーム作りを確立させたい。苦情は職員の学びの一環として受けたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	季節毎の広報誌で近況報告を実施。 はがき、電話での近況報告をしている。 状態変化があったときは家族に連絡し家族の要望も取り入れ対応している。 面会時、「近況報告」と「小遣い帳」を確認していただきサインを頂いている。	○	提供内容に変化があった場合は報告と同意書を記載していただいている。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情処理システムの説明をし、常に玄関に目立つ色の用紙でシステムがあることを掲示している。	○	家族には面会時前回と比べて変わった事はないか、希望、要望はないかお聞きしている。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見は反映されている。組織図形式で経営者、管理者、スタッフと意見が反映される仕組みとなっている。 定期的に職員会議を設けている	○	事務所会議を多く設けより運営に反映させていきたい。また、運営者の定期的な訪問があり意見を出せるシステムとなっている。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1、2F職員の応援、休日職員の確保など職員の理解を得ている。急な休みの場合は当日16時までの電話連絡を義務付けしスムーズな連絡体制を作っている。	○	ホーム近辺順での緊急連絡網があり緊急時の対応は可能となっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の新しい配置時は事前回覧、紹介を行い理解を得ている。 新職員に対しては新人オリエンテーションを実施している。 入居者全員に紹介している。	○	移動、配置換え時はユニットへの体験、マニュアル、インフォメーションカードで周知を図っている。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員受け入れ時は評価項目があり1週間、1ヶ月、3ヶ月で評価、面談をしホームに根付く職員作りをしている。研修参加後は伝達研修を行い報告会を実施している。	○	なるべく多くの研修に参加させ意欲的に取り組んでいけるようにしたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「青森の認知症ケアを考える会」による、ホーム間の相互訪問を行い、相互評価を実施している。また、それとは別に随時、他ホームへの見学、他ホームよりの見学を受け入れ交流を図れるようにしている。	○	ホーム交流学習会をやって行きたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間、場所を確保できている。 職員の提案、思いを形に出来るようなシステム作りをしている。	○	得意項目、力量に配慮し業務体勢作りをしていきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	有給休暇をとり易い環境を作っている。 定期的な健康診断、予防接種を実施している。 介護福祉士資格を目指させている。	○	家庭環境に配慮したシフト作りをし、やりがいと働きやすい環境作りをしていきたい。緊急時には各ユニットの応援を可能にしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	プライバシー、座る位置に配慮し話を聞いている。 傾聴姿勢でお聞きしている。 管理者不在時は連絡の必要性を聞き対処している。	○	アセスメント後は報告文にて1、2F全職員が周知できるようにシステムにしている。緊急時には各ユニットの応援を可能にしている。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	待機、緊急性を見極めている。 介護サービスの対象になるか判断している。 空き発生時、混乱事例時地域包括への相談をしている。	○	「傾聴」する姿勢で聞き名刺、パンフレットをお渡ししいつでも相談できるようにしている。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前後の家族との連携を図り「自宅」と変わらない環境づくりをしている。 入居1週間は状態報告で連絡を入れている（報告の有無は事前に聞く）。	○	職員へは入居者の個々を理解し、対応する事を職務とするよう指導している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自宅にいた時となんら代わりのない生活が出来るよう配慮し、本人らしい生活が出来るよう支援している。役割作り、得意なもの、好まないもの等を事前に調査し把握した対応を心がけている。担当職員をつけ個々関わりを重視。生活歴、家族情報で主役になれる場を作る。体調、意思を重視し無理強いさせない。	○	個々に主役になれる場作り、他入居者との仲間作りを心がけて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームで解決しようとせず家族の意見、言葉を大事にしている。 面会時は些細なことでも報告させていただき喜怒哀楽を共有している。	○	キーパーソンのみならず本人との位置関係を把握し本人を支える関係を築きたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的に応報誌および年賀状の発送。 行事への参加を促している。 家族写真をたくさん飾り「一人ではない」環境を作っている。	○	一年に一度でも家族宅への外泊を支援したい。 (レベル的に可能な方)
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺参り、墓参り、銭湯、野球観戦、病院見舞い等へ出かけ支援している。	○	職員は家族として、一緒に考え係るようにしていきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間関係を把握し食席等の配慮をしている。 トラブル時は気分転換の介入をしている。 役割づくりをし全員が主役になれる場作りをしている。	○	居室変更時は家族へ相談し了解を得ている(本人へも)
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	定期的な訪問をしている。 次の施設へ移るまで、先方ケアワーカーと連絡を密にし、不安要素を煽らないようにしている。	○	開設間もない為、退去者も数名だが、いつまでも係りを持っていたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に合わせた起床、就寝時間等があり、個人の生活スタイルを尊重している。困難時は、家族からの情報をお聞きし、本人の意思が尊重されるようにしている。	○	たまにいらっしゃる（キーパーソン以外）家族の情報も得るようにしている。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他入居者様との会話の中にも、生活スタイルの把握、本人の意向を察知出来るようにしている。入居時の本人、家族からの情報を元に尊厳を傷つけないケアをしている。面会時の家族情報を密にし職員間の情報の場としている。	○	個々の入居者様の「自分史」を作成していきたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活時間を尊重している。排泄パターンをチェックし、把握している。	○	排泄チェック表を元に、受診時Drとの連携を図っている方もいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の了解を得要望・希望をお聞きしている。	○	職員間でもレベルの差があり今後の支援が必要。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月から6ヶ月スタンにしており、変化時は見直しをかけている。担当をメインに評価している（係り、目線、気付きの重視）。	○	アセスメントフォーマットを見直したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回の職員会議や、記録に関する学習会等、その都度指導等している。	<input type="radio"/>	ケース記録の見直しを検討したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	①医療連携を図り月2回の健康チェックを実施 緊急時の連絡とアドバイスの連絡網の整備が出来ている ②ホームDrの往診と緊急時の訪問、依頼の実施	<input type="radio"/>	短期利用の受け入れもしたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる活動があり、入居者様は楽しみにしている。図書館より、本や映画のビデオを借りてきている。 地域駐在所の訪問によりホームの存在を知っていただき協力体制は出来ている。地区消防団と連携して防災訓練を実施している。	<input type="radio"/>	本年度は、青森県総合社会教育センター主催の映画鑑賞会に出席し、地域資源を活用したい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居後も担当ケアマネとの連携を図っている。 理容サービスの訪問を受け入れている。	<input type="radio"/>	GH入居中、どのようなサービスが受けられるか思案したい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	適切なホーム利用、病院、施設サービスが受けられるよう見直しを行っている。 地域包括のアドバイスをいただける環境にある。	<input type="radio"/>	地域包括は相談しやすい環境にあり、混乱事例などのアドバイスを受けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	受診時家族の都合がつく場合は同行にてDrとの連携も必要と考える。
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	つくしが丘病院での「勉強会」へ、参加させていただいている。
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	訪問日以外でも、「その後」を連絡し合っている。今後、訪問看護と連携して、もっと内容を充実させたい。
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	退院時家族と一緒にDrからの申し送りをお聞きし連携を図りたい。
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	まだ事例はないがハード面でも対応は可能 職員のレベルアップも図りたい
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	「出来ないこと」は家族、職員と共に考えて行きたい 本人の意思を尊重したい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	退去時は、本人、家族との話し合いを多く設けて いる。 退去先とのケアワーカーとも、連絡を密に情報交 換している。	○	ダメージを受けないようフォローアップしている (本人、家族とも)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	会話時は傾聴、受け入れを重視した対応をしてい る。居室への出入り時のマナーを周知している。 ケースへの記載時は他者の情報が入らないよう にしている。入社時オリエンテーション項目へも 「個人情報」として退職後であっても情報を漏ら さないよう指導している。	○	ボランティア受け入れ時も、ホームで知りえた情 報は、口外しないよう説明している。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	行事参加への有無、飲み物を選択していただく等 自己決定を促している。	○	家族のような接し方になることもあるので言動に 気をつけるようにする。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	起床、就寝時間等を本人に合わせる、朝食時間、 買い物希望等本人の意向に合わせている。	○	常時人員確保が可能でなければ、職員配置に余裕 が無く、職員のゆとりも生まれない為、業務優先 となりうる。その為、職員の定着を図りたい。ま た、日頃の職員の健康管理、ストレス回避等自己 管理に努めたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	本人の好みを尊重している。 買い物時も同行し、一緒に選ぶ支援をしている。 衣類は季節毎に、入れ替えをしている。	○	入居時理、美容に関しての情報をいただき本人の 意思を尊重している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備、跡片付けをしている。昼食は、入居者さんの間に席を設け、一緒に食事をしている。食べこぼし、むせの観察をしている。食材担当職員が、定期的に食に関する意見を調査している。	○	急な食事が必要であっても対応が可能となっている
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好にあわせた配慮がされている。行事に合わせたメニューを提供している。	○	糖尿病の方もいるので糖分の管理をしている。カロリーセーブの方であっても対応が可能。
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各入居者様の排泄パターンを把握し、声掛け時の羞恥心、プライバシーへの配慮をしている。	○	居室へ排泄具を置く時は、視界に入らないよう、プライバシーの配慮をしている。処分時は、新聞紙に包み対応している。
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の湯加減、入浴方法に配慮し対応している。入居者様の希望やタイミングに合わせて、シャワー浴を実施している。	○	入浴時間、曜日が決められているので改善していきたい。シャワー浴の回数を増やしたい。
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の日光浴、活動等を支援し夜間は熟睡できるように支援している。就寝時刻も個々のペースに任せている。Drとの眠剤の調整、明かり、音にも配慮している。	○	消灯しないで就寝される入居者様がいたので、職員の方で配慮していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事や家事作業（掃除等）の役割を持っていただいている。	○	役割の持ちすぎでトラブル、攻撃も見られるので配慮していきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時入居者様に支払いをしていただき入居費引きだし、支払い時確認していただいている。また、小遣いの出し入れ時、確認を一緒にしている。	○	出来るだけ、買い物の希望に、その都度対応していきたい。金銭管理は、家族の確認後サインを頂いている。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見て散歩、徒歩での買い物および銭湯に出かけている。	○	団体、遠出を好まない方へも配慮している。外出に参加されない時は、ホーム待機者を置き、安心していただいている。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブまたは行事の際、入居者様の希望を取り入れ、遠方に出かけている。また、墓参り等の外出にも個別に対応している。	○	普段からコミュニケーションを図り行って見たい、又行きたいところを聞き状況を把握している。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族より電話が可能なのかお聞きし時間対等配慮居しかけていただいている。	○	電話、手紙で気持ちを伝えることが出来るよう支援していきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は24時間可能となっている。(但し施錠時間が設けられている。) 快く受け入れ、お帰りになる際もお見送りし、又、面会に来ていただきたい旨をお伝えしている。	○	家族の宿泊事例はないが対応していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束必要時の同意書を完備している。鍵のみではなく座らせきり、無意味な施錠も拘束となることを周知させている。	○	入居時の説明時には、施錠、拘束に関して、説明をしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠時間を21:00から6:00までとし、それ以外は、人員が確保できない場合のみ施錠している。 トイレ、浴室、脱衣所は、施錠できるが居室には設置していない。 帰宅要求時は、散歩等で気持ちを紛らわせるようにしている。	○	目配りが必要な方に対しては、鈴で対応している。
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事務所内にこもらない、ホールを無人にしないなど対応をしている。 全体を見渡せ、書き物が出来る工夫がされている。	○	人的配置で動くよう、指導している。 例：ゴミだし時ホール人員を確認し外に出る。
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等は入居者さんの手の届かない、施錠が可能な場所への保管としている。包丁は夜間施錠棚に収め施錠している。その為に刃物本数を明確にしている。	○	マニュアルに添った取り決めをし、安全な場所への保管をしている。
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと記録、事故報告書は、全職員が見れるように保管し、職員会議時に事故症例を出し学んでいる。	○	ひやりはっと委員会を充実させたい。
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを常に常備し周知を図っている。 救急救命講習を受講している。 緊急時連絡網を作成している。	○	新人育成として入社時は消防本部で受講してもらっている。
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。（夜間を想定した訓練も含む。）	○	もっと地域住民の方にも参加していただける、避難訓練を実施したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時状態報告をし理解を得ている。 準備品発生時は、理解を得、準備、購入している。	○	想定できないものもあるので日頃の家族とのコミュニケーションを密にしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態変化時は職員間の情報共有をはかり記録にも残している。家族連絡も行っている。	○	夜間でも緊急連絡網で対応できるようにしている。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はケースの目につく場所に保管し薬内容、副作用を周知している。薬の変更時はケースと申し送りに残している。薬辞典を準備している。取引先の調剤のアドバイスが受けられる（24h）。	○	副作用の関心、理解を深めて行きたい。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表で排便パターンを把握し一日の水分量も観察し自然なお通じを心がけている。 下剤処方されている方は、調整し状態を見ている。	○	個々に便秘対策飲み物を準備されている。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア介助者の対応を実践している。 歯科往診の可能な為、Drとの相談も可能。 個々にあった歯ブラシ、歯磨きの購入をしている。 夜間は、洗浄剤を使用している。	○	個々にあったブラシ、歯磨きこを使用していただき週一回口腔ケアグッズの消毒を行っている。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が管理しカロリー計算できている。 水分量チェックも行い摂取目安をチェックしている。	○	2ヶ月ごとの栄養士との話し合いがあり希望を取り入れてもらっている。終了後会議録にし周知している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルを設置している。 市からの情報を各ユニットへ提供し、保存版としている。 玄関、洗面所に手指消毒を設置している。	○	インフルエンザ等の流行時は、玄関に明記し、情報を周知させたい。 職員へは手洗い、うがいが一番の予防であることを周知させている。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン衛生管理表にて毎日夜勤帯で衛生管理を行っている。週1回台所徹底掃除をしている。	○	食事作り字のエプロン、バンダナの装着を義務付けしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に入りやすい雰囲気のアプローチを設置している。 近隣と違和感がない外壁となっている。	○	「お気軽にどうぞ」の看板も設置し入りやすい雰囲気を作っている。 花を飾ったり、野菜を植えたりし、親しみやすさを出している。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の絵を飾っている。 ハード面の不備時早急な対応が、出来る環境となっている。 職員の履物は、音が出ないものを準備してもらっている。	○	各居室表札に季節毎の飾りを付けている。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙場所があり時間を決め対応している。 リビングがあり食事後くつろげる空間がある。	○	食事席も気の合う方が、同席できるよう工夫している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	担当職員が入居者に合った居室作りをしてい る。 入居時なじみの物など持参していただけるように している。	○	居室入り口がみな同じなので居室が分からなくな る方へは目印になるようなものを付け対応してい る。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎日4回、各居室の温度湿度を記録し、温度調節に 配慮している。SHS工法により24時間温度差がなく 温、湿度が管理できている。	○	不備時は早急な対応が可能となっている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが設置されてい る。車椅子は常に使用できるよう準備している。	○	不備時は早急な対応が可能となっている。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレ、浴室が分かるように明示市混乱を招かな いようにしている。	○	居室入り口には表札があり混乱を招かないように している。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	花壇に木を植え入居者が毎朝みずやりをする夜 が日課となっている。玄関に縁台があり休息でき るようになっている。	○	花壇の草取りも日課となり作業をしながら成長を 楽しんでいる。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地区住民の方々の協力が得られており、また、地域資源を積極的に活用をしている。
ヒヤリハット委員会を設置し、全職員が事故防止に積極的に取り組んでいる。
職員が入居者様を人生の先輩として敬い、学ばせていただいている。